

未来を見据えた施策を推進

平成29年3月定例市議会が、2月24日～3月23日に開かれ、平成29年度予算などが審議されました。同議会の冒頭に小泉市長が語った施政方針の概要をお知らせします。

平成19年1月の市長就任以来、次世代に誇れる空の港まち、生涯を完結できるまちづくりに向けて、常に全力投球で市政運営に取り組んできました。就任から11年目となり、3期目の折り返し地点を迎えましたが、昨年は、本市の未来を決定づける大きな転機となった年であったと感じています。

まず4月に国際医療福祉大学成田看護学部、成田保健医療学部が開学し、地域医療体制の充実に向け動き始めました。8月には、国

家戦略特区による医学部設置が文部科学省より正式に認められました。医学部新設は、東日本大震災復興の特例を除くと38年ぶりのことで、日本の歴史にも刻まれる大きな一歩であったと思います。

また、卸売市場は開設から43年が経過し、耐震強度の問題から、近代的で農林水産物の輸出拠点機能をも有する市場として再整備することとなりました。充実した交通ネットワークの利点を最大限活用できる立地と必要十分な面積との観点から、千葉県花植木センター跡地を候補地とし、移転再整備に向け大きくかじを切りました。

そして、成田空港の機能強化では、9月末に成田空港の四者協議会が開催され、第3滑走路の建設、B滑走路の延伸、夜間飛行制限の緩和など、空港のさらなる機能強

化策が提案されました。空港の機能強化は、地域経済の発展に大きな効果をもたらします。その一方で、発着回数の増加、夜間の飛行騒音、航空機からの落下物などにより、騒音地域に住む皆さんの生活環境への影響が懸念されます。空港の機能強化と環境対策、地域振興策は一体的に取り組まなければならぬと考えており、今後とも騒音地域の皆さんと真摯に向き合って丁寧な話し合いを重ね、合意形成を図ってまいります。

成田空港と共に発展してきた本市にとりまして、これらの施策は、空港があるまちだからこそ取り組める最大の地方創生です。空港を擁する本市の強みや特性を最大限に引き出していくことが、市の発展につながるものと考え、各施策にスピード感を持って全力で



上空から見た成田空港



施政方針演説をする小泉市長



水防工法を実践する消防団

取り組んでいきます。

平成29年度の予算は、総合計画「NARITAみらいプラン」で掲げた「若者や子育て世代に魅力のあるまちづくり」「医療・福祉の充実したまちづくり」「空港と共に発展するまちづくり」の3つの基本姿勢に基づき、将来を見据えた施策を推進すべく編成しました。

また、健全財政を維持するた

安全・安心で

うるおいのある生活環境をつくる

昨年4月に発生した熊本地震をはじめ、東日本大震災や過去の大規模災害では、市町村の庁舎が被災したことにより、行政機能に支

障をきたした事例がありました。このため、同時に被災する可能性が低い、遠隔地の自治体との災害時相互応援体制を推進します。また、多様化する災害への対応を踏まえ、老朽化した三里塚消防署庁舎の建て替えを行い、防災拠点機能の強化を図ります。さらに地域防災の要である消防団に新たに女性消防団員を採用し、消防団の充実・強化を目指します。

地域

重点地区を中心に防犯カメラの設置をするほか、各種防犯パトロールの実施、犯罪発生状況の情報発信を行うなど犯罪抑止に努めます。住宅関係施策では、木造の戸建て住宅に加え、新たに非木造住宅

やマンションなどについても耐震

診断などの支援を実施します。また、市営住宅では、UR賃貸住宅を借り上げて転貸することで、老朽化のために解体した市営住宅の戸数を補い、住宅困窮者の住宅確保に努めます。

ごみ減量化対策では、ごみ分別区分の周知やリサイクル運動団体の育成、30・10運動の推進などのほか、新たな一般廃棄物処理基本計画を策定し、さらなるごみの減量化・再資源化に取り組みます。

動物愛護に関する施策では、

健康で笑顔あふれ、

共に支え合う社会をつくる

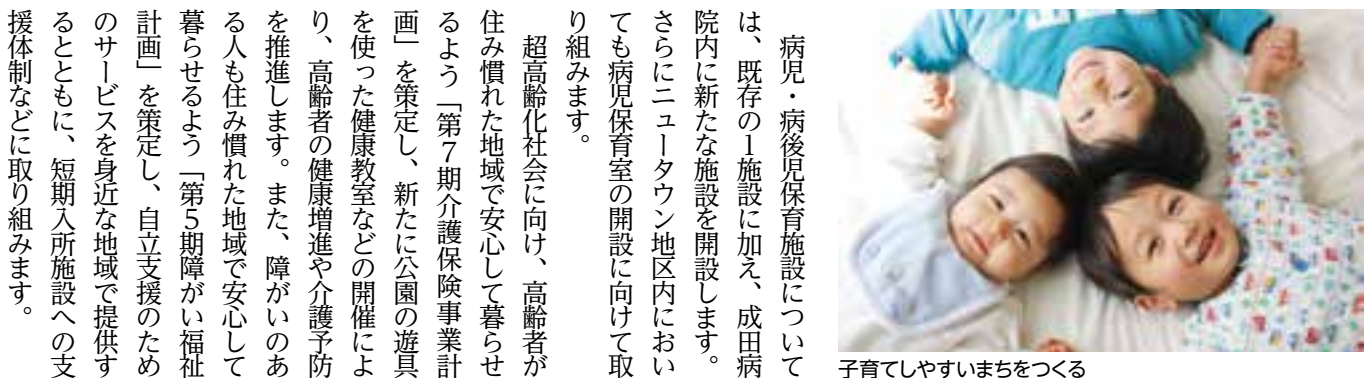
動物愛護に関する施策では、

「飼い主のいない猫の不好手術及び去勢手術費補助金制度」を新たに創設し、市民の良好な生活環境の保全を図るとともに、印旛地域の獣医師会と協定を結び、災害時のペットの救護についても取り組んでいきます。

水道事業では、送水管などの基幹管路の本市の耐震化率は80・9パーセントと高く、全国でも4番目となります。今後も、災害に強い水道の整備に積極的に取り組むとともに、将来の水需要に対応していくため、並木町配水場の改修工事に着手します。

待機児童解消に向けた取り組みとして、4・6月に、認可保育園2園と本市初となる「認定こども園」2園が新設されます。さらに、小規模保育事業所2カ所の新設や家庭の保育事業の実施などにより、合わせて400人以上の児童の受

け皿が新たに確保されます。また、保育士の復職支援のため、保育士の子どもの保育園への優先入所を制度化したに加え、新たに私立保育園の保育士給与に上乘せ補助をする「なりた手当」を創設するなど処遇改善を積極的に進め、保育士の確保に努めていきます。



子育てしやすいまちをつくる

病児・病後児保育施設については、既存の1施設に加え、成田病院内に新たな施設を開設します。さらにニュータウン地区内においても病児保育室の開設に向けて取り組みます。

超高齢化社会に向け、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう「第7期介護保険事業計画」を策定し、新たに公園の遊具を使った健康教室などの開催により、高齢者の健康増進や介護予防を推進します。また、障がいのある人も住み慣れた地域で安心して暮らせるよう「第5期障がい福祉計画」を策定し、自立支援のためのサービスを身近な地域で提供するとともに、短期入所施設への支援体制などに取り組みます。

地域文化を生かし、 未来を担う心豊かな人材を育む



外国人英語講師と英語で会話

学校・家庭・地域が一体となった教育体制では、地域住民が学校支援ボランティアとして参画する「学校支援地域本部事業」の取り組みを拡大し、引き続き地域と共に歩む学校づくりを進めます。

学校施設整備では、平成33年度の開校を目標に、大栄地区5校の統合小学校と中学校を一体型校舎として建設するため、グラウンドの整備に着手します。また、豊住小学校の大規模改造工事や、児童・生徒数の増加に対応するための久住中学校の増築工事などを実施します。さらに、市内小中学校のトイレの洋式化率は県内で上位ですが、小学校に続き中学校の洋式化を積極的に進めていきます。

子どもを取り巻く環境は、少子高齢化の進行やグローバル化、家庭・地域の教育力を巡る問題など、さまざまな課題が生じています。このことから、市では学校教育に関する施策を総合的にまとめた「輝くみらいNARITA教育プラン」を基に、将来に夢と希望を持ち、自分の進むべき道を切り開く力を育む教育を推進していきます。

特に、本市が全国に先駆けて取り組んできた児童・生徒の英語教育は、全国に誇れる成果を出しており、今後も、英語によるコミュニケーション能力の育成に取り組んでいきます。

学校給食では、今後も地元産の食材を活用し、栄養豊かでバランスの取れた安全・安心な給食を提供していきます。また、給食レストランを各調理場で開催し、地域の皆さんに学校給食への理解を深めていただけるよう努めます。

生涯学習については、明治大学・成田社会人大学や生涯大学院などの充実を図り、市民の皆さん

が生涯にわたり生きがいを持って主体的に学べるよう推進します。

また、成田わくわくひろばや家庭教育学級の開催などにより、学校・家庭・地域が一体となって青少年の健全育成を図れるよう支援します。さらに、文化芸術センタースカイタウンホールなどを活用したさまざまなイベントをはじめ、市民文化祭の開催など、文化・芸術の発展と振興に努めます。

空港の機能を最大限に生かし、 魅力的な活気あふれる都市をつくる

成田空港の機能強化は、地域の活性化や雇用の場の拡大など、地域経済の発展はもとより、観光立国日本のためにぜひとも実現すべき課題であると考えています。

一方、機能強化に関する住民説

生涯スポーツの振興では、中台運動公園体育館アリーナの空調設備工事に着手し、快適なスポーツ環境の整備を進めます。そして、

旧豊住中学校の跡地活用として「豊住ふれあい健康館」がオープンし、市民一人一人の健康づくりや生きがいづくりに対する支援を行うなど、市民のスポーツ・レクリエーション活動の推進に努めます。

明会では、特に夜間飛行制限の緩和について、厳しいご意見をいただいております。成田空港の機能強化について住民の皆さんのご理解をいただけるよう関係機関と連携し、最大限の努力をしていきます。

2020年東京オリンピック・パラリンピックにおけるアメリカ陸上チームの事前キャンプの受け入れを、千葉県をはじめ成田市・佐倉市・印西市・順天堂大学で行うことが、昨年5月に決定しました。さらに、平成30年に千葉県を舞台として開かれる世界女子ソフトボール選手権大会では、本市が会場地の一つとなります。

そして、平成31年に開催される

ラグビーワールドカップ日本大会の公認チームキャンプ地に立候補するとともに、その直前に行われる事前キャンプの受け入れを目指し、昨年はフィジー、トンガへの誘致活動を行いました。今後は、受け入れに向けた態勢を整えるとともに、引き続き、空港を活用したスポーツツーリズムの推進に努めます。

4月に国際医療福祉大学医学部が開校します。今後、大学医学部付属病院の開設に向けて、必要な手続きを進めるとともに、地域貢献や協働事業の方策についても大学と協議していきます。

都市計画については、都市計画マスタープランで定める理念や目標を共有し、将来都市構造などを実現化するための具体的な計画として立地適正化計画を策定します。表参道は、昨年4月に認定された日本遺産の主要な構成要件のまち並みであることから、さらなる門前町の特長を生かした景観形成を図るため、車道を石畳風の舗装に改修します。

公園事業については、7月に大谷津運動公園内で、若者に人気のスケートボードパークの供用を開始します。また、近年、犬を家族の一員として受け入れる人が増え



平成27年の世界陸上アメリカチーム事前キャンプ

ていることから、人と犬が共に安らげる場を提供するため、新たにドッグランの整備を進めます。
道路整備については、大学医学部付属病院地区と周辺地域の円滑

活力ある産業を育て、にぎわいや活気を生み出すまちをつくる

訪日外国人旅行者数が2、000万人を超え、今後、さらなる増加が見込まれます。市では、平成30年の成田山開基1080年祭に向け、地域と一体となったPR活動や記念行事を実施します。ほかにも日本遺産をPRするとともに、引き続き「成田市御案内人市川海老蔵プロジェクト」や「成田伝統芸能まつり」といった日本の伝統芸能や文化を活用した本市の魅力発信に努めます。さらに、安心して観光ができるよう、多言語の観光案内や災害情報配信アプリの運用を開始するなど、国際観光都市としてふさわしい環境整備を図ります。そして、国内外から訪れる観光客に、これまで以上に「訪れてよし」と満足していただける観光行政を実施していきます。



全国の芸能団体が集まる成田伝統芸能まつり

な連絡を促すため、新たな幹線道路の検討を進めます。そして、既存の県道機能を補完するため、西三里塚大清水線第2工区の整備を進めます。

業融資制度」に対する利子補給を新たに加えることで、より一層、中小企業の経営支援に取り組みます。さらに、市内の中小企業で若い世代の人材不足が懸念されていることから、企業と学生をマッチングさせるための合同説明会や企業向けの人材確保に向けたセミナーを開催し、中小企業の若手人材確保を支援していきます。

市民生活を取り巻く環境が多様化、複雑化している中、市民ニーズの市政への的確な反映と、市民によるまちづくりへの積極的な関与が一層重要になっていきます。そこで、市長への手紙や市政モニター制度をはじめとした市民の意見や情報の把握と、市民向けワークショップなどによる市民参画の機会を拡充していきます。

業のあり方を地域で定める計画「人・農地プラン」の策定を積極的に推進します。そして、農地中間管理事業の活用や農地利用集積団滑化団体などと連携して、農地の集積と規模拡大を促進していきます。

また、生産性向上のための機械・施設の導入に対する支援、新規就農者などの担い手の確保育成、農道や農業用排水路の計画的な整備など、農業経営基盤の強化に努

市民サービスを充実させ、持続可能な自治体運営を行う

めまます。加えて、生産者の顔が見える農産物販売による地産地消を推進し、体験農業を通じた都市と農村との交流や、農産物のブランド化、6次産業化に向けた取り組みを積極的に支援していきます。

卸売市場については、輸出拠点機能を持つ市場と併せて、市民の皆さんや空港を利用する国内外の旅行者が、買い物や日本の食を楽しめるような集客エリアも整備していきます。

ずは騒音地域の視聴エリア拡大に向けて取り組んでいきます。

公共施設などの管理については、公共施設等総合管理計画に基づき、長期的な視点で施設などの長寿命化や全体最適化を図り、将来の更新費用などの抑制に努めます。

平成28年末に、ノーベル生理学医学賞を受賞した、大隅良典・東京工業大学名誉教授は、この28年間、一貫して細胞の「自食作用」オートファジーの研究に取り組んできました。大隅教授が昭和63年に研究を始めた頃、オートファジーは誰からも注目されず、研究している人はほとんどいなかった



医学部建設中の様子(平成28年10月)

そうです。

大隅教授は、「科学サイエンスにはゴールがない。何かが分かったら必ず次に新しい疑問が湧いてくる」と言っています。

まちづくりも、社会の変化とそれに伴う市民ニーズに対応していく中で、常に新たな課題に取り組むなど、ゴールはありません。大隅教授の思いは、市政を預かる私にも通することだと感じています。

医学部の開学、輸出拠点機能を持った卸売市場、成田空港の機能強化などの施策は、世界に通ずるまち成田だからこそ取り組めることです。

今後、本市のポテンシャルを最大限に生かし、これからの成田を担う子どもたちが誇りを持てる、未来を見据えた施策に果敢に取り組みんでいきます。